

YAMAHA

Clavinova®

CLP-122

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・クラビノーバをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

クラビノーバは、楽器づくりの経験豊かなヤマハが、伝統につちかわれた感性と先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、画期的な鍵盤楽器です。

本書では、クラビノーバの魅力をいつまでもお楽しみいただけますよう、正しい取扱方法を説明しています。ぜひ、ご一読ください。

本書の構成

はじめに

「はじめに」では、CLP-122の特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけ方などについて説明してあります。CLP-122を最初にお使いになる前に、必ずお読みください。



基本編

「基本編」では、CLP-122を演奏するにあたって、基本的に知っておきたいことを説明してあります。とりあえずCLP-122で演奏してみたいという方は、まずここだけをお読みください。

活用編

「活用編」では、CLP-122の発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明してあります。CLP-122を使って他の楽器とアンサンブルをする方、またMIDI機能を活用する方はここをお読みください。



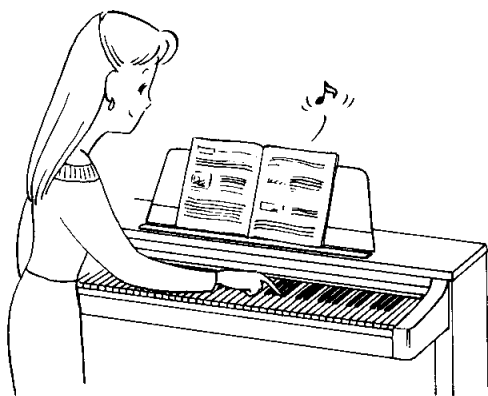
資料編

「資料編」では、CLP-122の組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

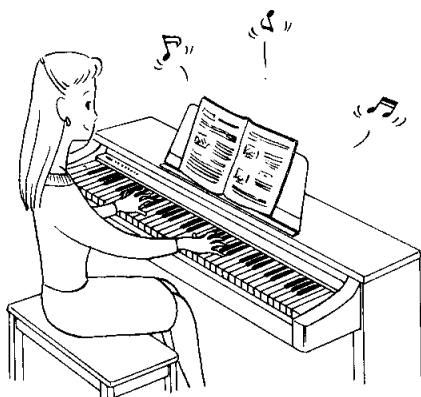
目次



ご注意	2
特長	3
目的のページの見つけ方	3
表記上のきまり	3



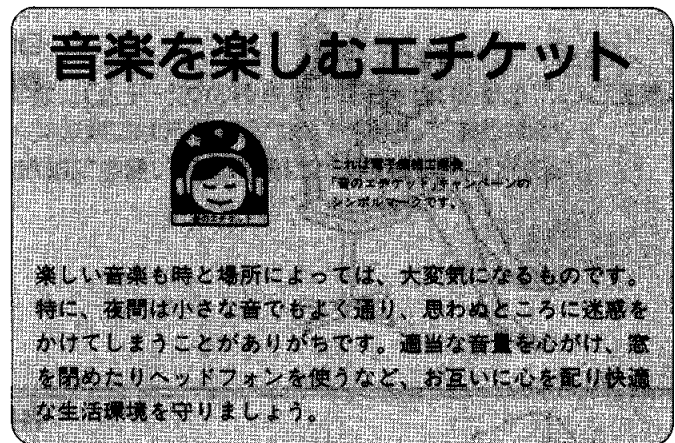
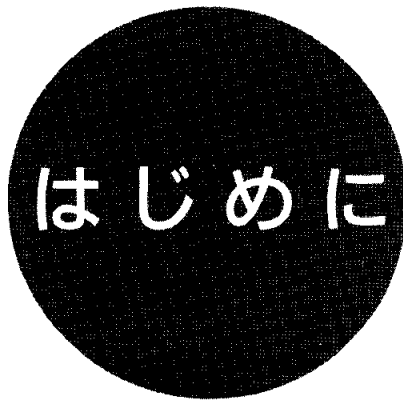
各部の名称とはたらき	4
さあ！弾いてみましょう	6
デモ演奏を聴いてみましょう	10
ペダル効果	12
リバーブ効果	14
デュアル機能	16



タッチセンシティビティ調節機能	18
トランスポーズ(移調)機能	19
ピッチコントロール機能	20
他の機器と接続する	22
MIDIについて	23
MIDIチャンネルの設定	25
MIDIトランスポーズの設定	26
その他のMIDI設定	27
MIDIデータフォーマット	30
MIDIインプリメンテーションチャートとは	32
MIDIインプリメンテーションチャート	33



クラビノーバの組み立てかた	34
仕様	36
オプション(別売品)のご紹介	36
アフターサービスと保証	37



ご注意

設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

お取り扱い



物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

電源の処理



ご使用後は電源を切ってください。

長期間ご使用にならない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製品を上に乗らないでください。

他の電気機器への影響



ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離してご使用ください。

保証書の手続き



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

保管



取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

特長

- ◆AWM音源によりリアルで高品位な表現が可能です。
- ◆32/16音同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。
- ◆ピアノのアクション機構解析から生まれた小気味良いタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。さらに、タッチセンシティビティ調節機能により、タッチ感度を3種類の中から選択できます。
- ◆デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏できます。
- ◆ユニークなクラビノーバトーン音色により、新鮮な音楽表現が可能です。
- ◆ダンパーペダルを踏んだ時のアコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果をも再現します（ピアノ1、2のみ）。
- ◆拡張用の接続端子に加えデジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がますます広がります。

目的のページの見つけ方


必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。

- ◆巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。
- ◆「基本編」の中の「各部の名称とはたらき」を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなった時に、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

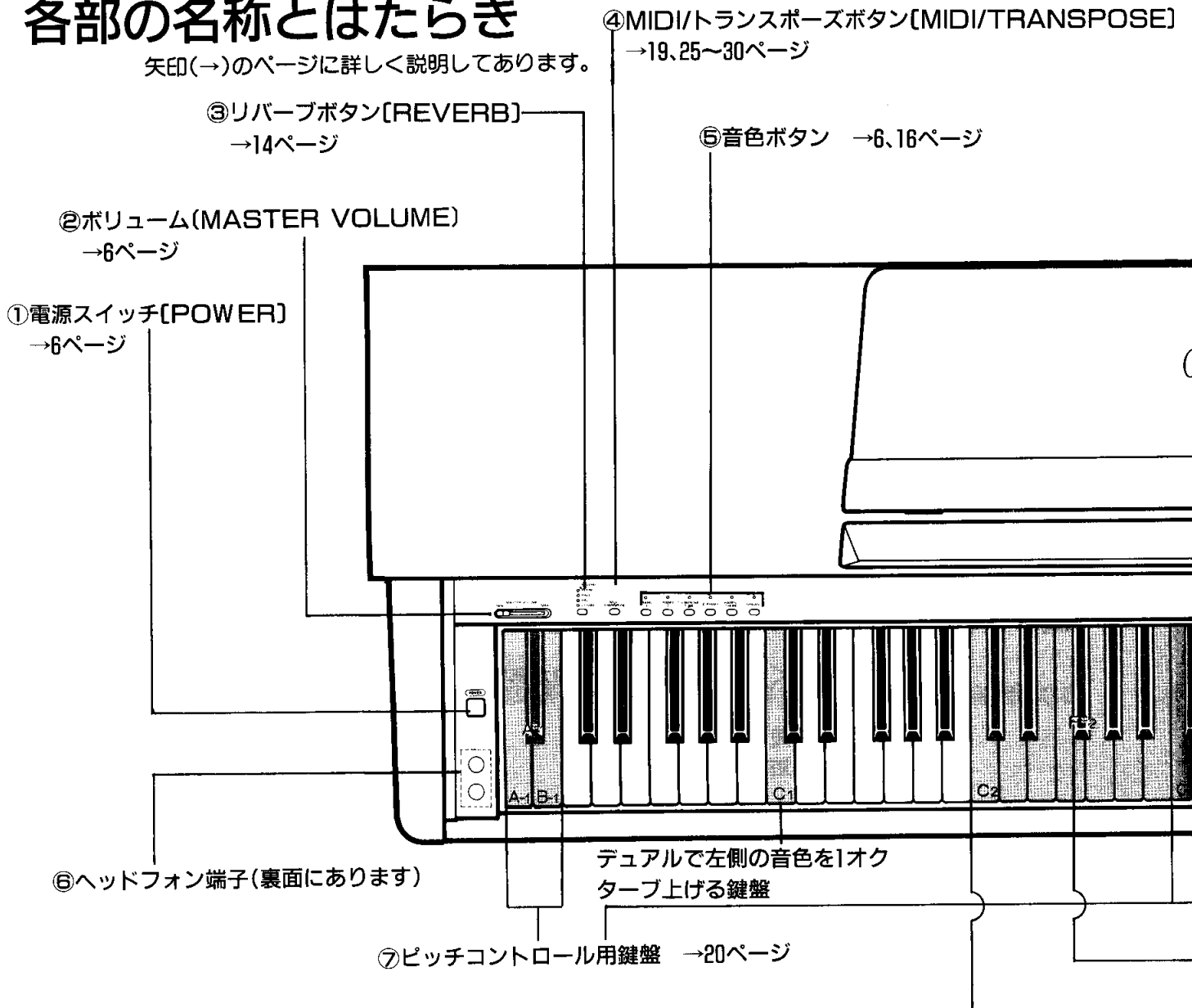
 補足 : 補足説明です。

●  ○ : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれ
点灯 点滅 消灯 このように表します。

基本編

各部の名称とはたらき

矢印(→)のページに詳しく説明してあります。



①電源スイッチ[POWER] →6ページ

CLP-122の電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

②ボリューム[MASTER VOLUME] →6ページ

音量を調節するためのレバーです。

③リバーブボタン[REVERB] →14ページ

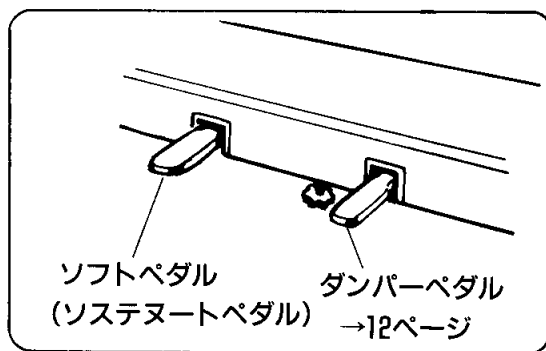
このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音に残響が付け加わり、音の響きが豊かになります。

④MIDI/トランスポーズボタン[MIDI/TRANSPOSE] →19、25~30ページ

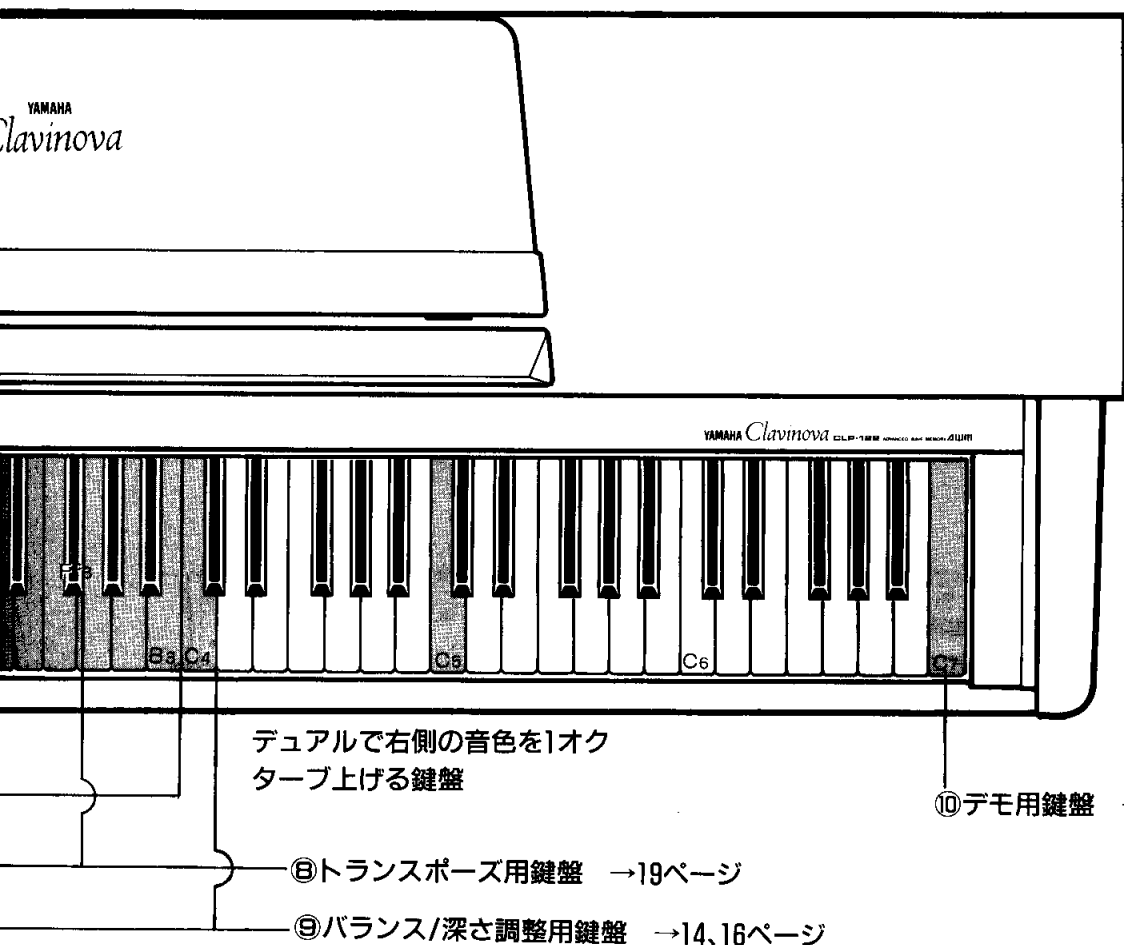
MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

⑤音色ボタン →6、16ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 →16ページ)



リアパネルの説明は22ページをご覧ください。



⑥ヘッドフォン端子(裏面にあります)

ヘッドフォンを接続すると、クラピノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることがありません。2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。

⑦ピッチコントロール用鍵盤 →20ページ

ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。

⑧トランスポーズ用鍵盤 →19ページ

トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。

⑨バランス/深さ調整用鍵盤 →14、16ページ

デュアルモードでの音量バランスや、リバーブ効果の深さを設定する時に使用する鍵盤です。

⑩デモ用鍵盤 →10ページ

デモ演奏を楽しむ時に使用する鍵盤です。

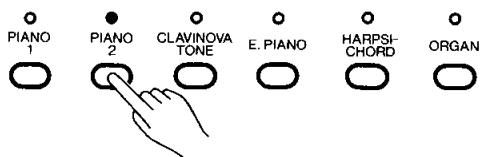
さあ！弾いてみましょう

1 電源を入れる



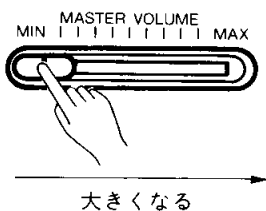
家庭用(AC100V)コンセントに電源プラグを差し込み、電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

2 音色の指定



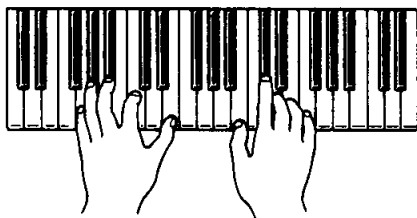
音色を選んで音色ボタンを押します。
次ページの音色一覧表を参考にしてください。

3 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

4 演奏



いろいろな音色に切り替えて、弾いてみましょう。
次ページ以降に、音色のイメージにあった楽譜を用意しています。これらの楽譜を指定された音色で弾いてみましょう。

音色一覧表

音 色	解 説
ピアノ1 (PIANO 1) ピアノ2 (PIANO 2)	2種類のグランドピアノの音です。ピアノ1はダイナミックで豊かな響き、ピアノ2は明るめの音です。
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)	ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした新しいイメージの音です。ドビュッシーなど、夢のあるムーディーな曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ (E.PIANO)	エレクトリックピアノの音色です。固めのクリアーな音です。
ハーブシコード (HARPSICORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハーブシコードの音色です。
オルガン(ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

🎵 補足 ・同時発音数は、ピアノ1、2は32音(32音ポリフォニック)、他の音色は16音(16音ポリフォニック)です。
 ・クラビノーバにはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

次の楽譜を参考にして、それぞれの音色で演奏してみてください。

◆ピアノ1、2 (PIANO 1)、(PIANO 2)

トルコ行進曲

作曲 : L.v. Beethoven

◆クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)

恋におちて

作曲：小林明子

Musical score for Clavinova Tone of the piece '恋におちて' (Love Falls). The score is written in 4/4 time with a key signature of one sharp (F#). It consists of two systems of piano accompaniment. The first system shows the right hand playing a melodic line with eighth and sixteenth notes, and the left hand providing a harmonic accompaniment with chords and single notes. The second system continues the piece, ending with a final chord in the right hand.

日本音楽著作権協会(出)許諾第9260034-201号

◆エレクトリックピアノ(E.PIANO)

ムーン・リバー

作曲：Henry Mancini

Musical score for Electric Piano of the piece 'Moon River'. The score is written in 3/4 time with a key signature of one sharp (F#). It consists of two systems of piano accompaniment. The first system shows the right hand playing a melodic line with quarter and eighth notes, and the left hand providing a harmonic accompaniment with chords and single notes. The second system continues the piece, ending with a final chord in the right hand.

MOON RIVER from the Paramount film "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini © 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9260034-201号

◆ハープシコード(HARPSICHORD)

主よ人の望みの喜びよ

作曲：J. S. Bach

Musical score for Harpsichord, consisting of two systems of two staves each. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/8. The first system shows the right hand playing a melodic line with slurs and the left hand playing a simple harmonic accompaniment. The second system continues the piece with similar textures.

基本編

◆オルガン(ORGAN)

もろびとこそぞりて

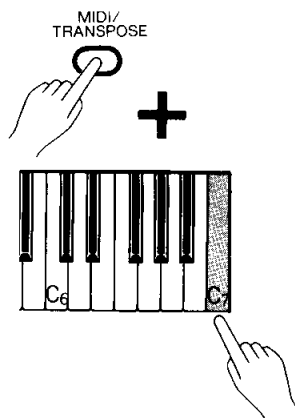
作曲：G. F. Händel

Musical score for Organ, consisting of two systems of two staves each. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The first system features a melodic line in the right hand and a bass line in the left hand. The second system continues with more complex textures, including sixteenth-note passages in the right hand.

デモ演奏を聴いてみましょう

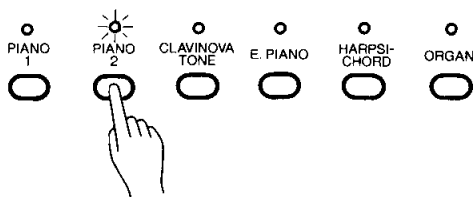
CLP-122には、デモ演奏が各音色について1曲ずつ、合計6曲内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

1 デモ演奏の選曲状態に入る



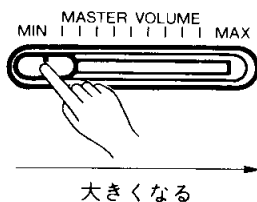
MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。すると、全音色ボタンの上のランプが点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

2 曲をスタートさせる



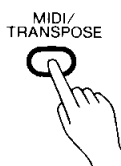
次に、デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押すと、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。デモ演奏中の音色ボタンを押すと、デモ演奏はストップし再び選曲待ちの状態に戻ります。

3 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。


4 デモ演奏状態から抜ける



MIDI/トランスポーズボタンを押すと、デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

デモ曲一覧表

音色	曲名	作曲家
ピアノ1 (PIANO 1)	華麗なる大円舞曲	ショパン
ピアノ2 (PIANO 2)	霧のレイクルイーズ*	倉本裕基
クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)	夢	ドビュッシー
エレクトリックピアノ(E.PIANO)	オリジナル	—
ハープシコード(HARPSICHORD)	インベンション第3番	バッハ
オルガン(ORGAN)	オルガン交響曲第5番 第5楽章	ヴィドール

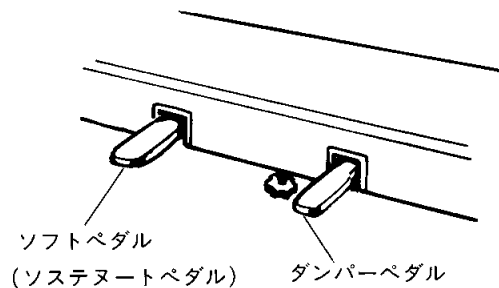
 **補足** ・デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

・デモ演奏を聴きながら、同じ音色で演奏することもできます。

* 「霧のレイクルイーズ」の楽譜は、ドレミ楽譜出版社のPiano Solo「倉本裕基／スペシャル・コレクション」およびPiano Solo「倉本裕基 Rêverie／夢の窓辺に」という曲集に掲載されています。

ペダル効果

CLP-122のスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り替えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。



1 ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。ピアノ1、2ではリバーブの設定がオフの時、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。

音色をピアノ1にして、次の楽譜の◎の印でダンパーペダルを踏み、効果を確認してください。

ラブ・ミー・テンダー

作曲：Elvis Presley & Vera Matson

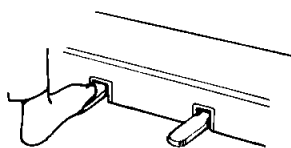
The musical score consists of two systems of piano accompaniment for the song 'Love Me Tender'. Each system has a treble and bass clef. The bass line includes four damper pedal markings, represented by a circle with a triangle inside (◎), positioned below the notes. The first system covers the first four measures, and the second system covers the next four measures.

LOVE ME TENDER by Elvis Presley & Vera Matson © 1956 by ELVIS PRESLEY MUSIC, INC. All rights reserved. Used by permission. Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC. 日本音楽著作権協会(出)許第9260034-201号

2 ソフト/ソステヌートの選択



+



MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、ソステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。

3 ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。

音色をピアノにして、⑤のマークからソフトペダルを踏み、効果を確認してください。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。

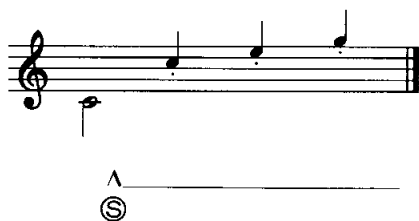


4 ソステヌートペダル

ペダルを踏んだ時に押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。

低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディーを弾くときなどに使用します。

音色をピアノにして、初めの「ド」を弾いた直後にソステヌートペダルを踏み、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけがのびたのがわかりますね。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。



- 🎵 補足 ・ソフト/ソステヌートの選択は、電源をオフにするまで記憶されます。
・電源オン時には、ソフトペダルになっています。

リバーブ効果

リバーブは、音に残響を付け加えて、音の響きを豊かにする効果です。

1 リバーブのタイプの設定

- REVERB
- ROOM
- HALL 1
- HALL 2
- COSMIC



リバーブ(REVERB)ボタンを何度か押して、希望するリバーブのランプを点灯させてください。ボタンを押すごとに、次のように切り替わります。

オフ(ランプ消灯)……………リバーブはかかりません。ピアノ1、2の音色の時はダンパーペダルを踏むと、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。

ルーム(Room)……………響きやすい部屋の中で弾いた時のような音になります。

ホール1(HALL 1)……………小さなコンサートホールで弾いた時のような音になります。

ホール2(HALL 2)……………大きなコンサートホールで弾いた時のような音になります。

コスミック(COSMIC)……………こだまのような響き加わった音になります。

リバーブのタイプは、全音色に共通の設定です。

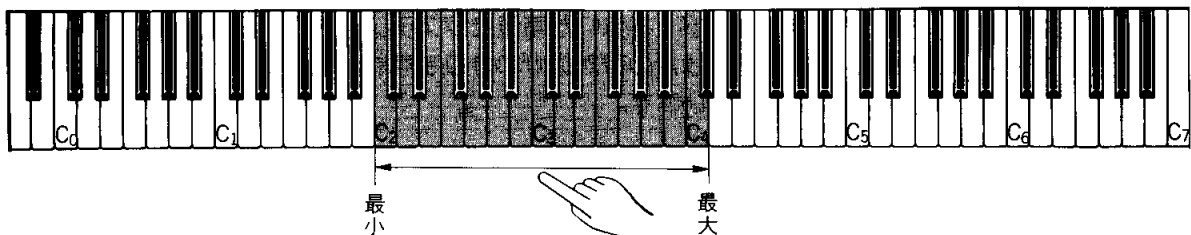
2 リバーブの深さ調整

- REVERB
- ROOM
- HALL 1
- HALL 2
- COSMIC



リバーブボタンを押しながら、C₂~C₄の鍵盤を押すことで、音色およびリバーブのタイプごとに(次ページの表を参照)、リバーブの深さ(かかり具合)を調整することができます。

C₂で最小、C₄で最大となります。



3 効果をかめよう

それでは、リバーブを切り替えながら次の楽譜を演奏して、効果を実際に確かめてみましょう。

ロンドン橋

イギリス民謡

- 🎵 補足
- ・設定は、電源をオフにするまで記憶されます。
 - ・ダンパーペダルによる共鳴効果の深さは固定です。
 - ・リバーブのタイプは全音色に共通の設定です。電源オン時には、オフとなっています。
 - ・リバーブの深さは音色およびリバーブのタイプごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定した深さになっています。

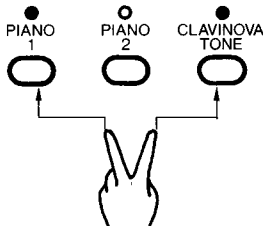
音色	タイプ	ルーム	ホール1	ホール2	コスミック
ピアノ		C3	C3	C3	C3
ピアノ2		C3	C3	C3	C3
クラビノーバトーン		C3	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ		C3	C3	C3	C3
ハーブシコード		C3	C3	C3	C3
オルガン		C3	C3	F3	E3

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

1

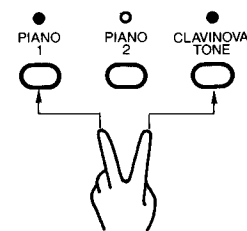
デュアル状態に入る



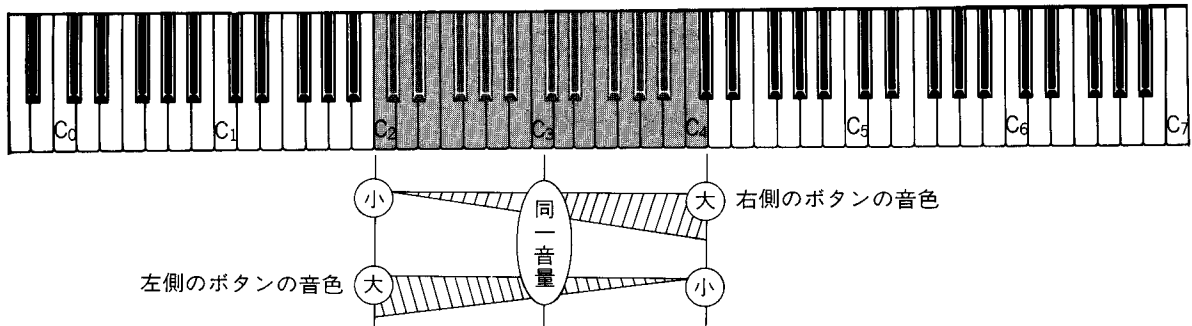
組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。

2

音量バランスの設定

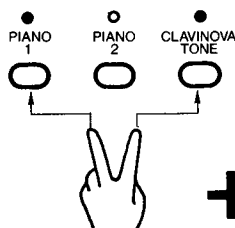


組み合わせたい2つの音色ボタンを押しながら、C₂~C₄の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



3

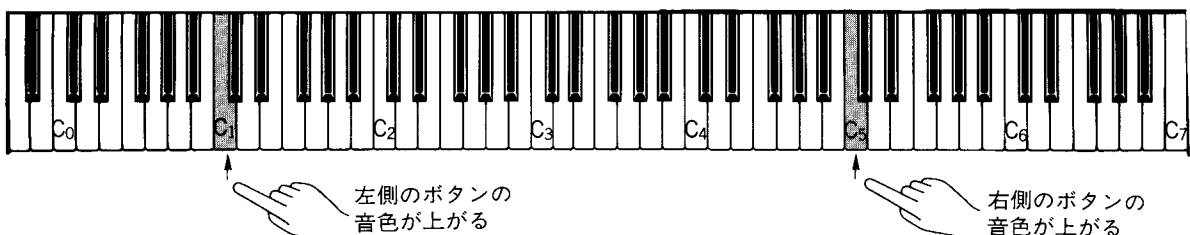
片方を1オクターブ上げる設定



組み合わせたい2つの音色ボタンを押しながら、C₅の鍵盤を押すと …音色ボタンが右側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

C₁の鍵盤を押すと …音色ボタンが左側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。





デュアルで演奏してみよう

それでは、ピアノ1とクラビノーバトーンとのデュアル状態にして、次の楽譜を演奏してみましょう。

星に願いを

作曲：Leigh Harline

WHEN YOU WISH UPON A STAR Words by Ned Washington Music by Leigh Harline © 1940 by BOURNE CO. (Renewed 1961) International Copyright Secured. All Rights Reserved. The Rights for Japan Administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9260034-201号

- 🎵 補足** ・設定は、電源をオフにするまで記憶されます。
- ・オクターブは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、全て同一オクターブになっています。
 - ・音量バランスは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシ コード	エレクトリック クピアノ	クラビノーバ トーン	ピアノ?
ピアノ1	F ₂	C ₃	C ₃	C ₃	C ₃
ピアノ2	F ₂	C ₃	C ₃	C ₃	
クラビノーバ トーン	F ₂	C ₃	C ₃		
エレクトリック クピアノ	F ₂	C ₃			
ハーブシ コード	G ₂				

C₂：左側音色最大音量/右側音色最小音量(0)

⋮

C₃：同一音量

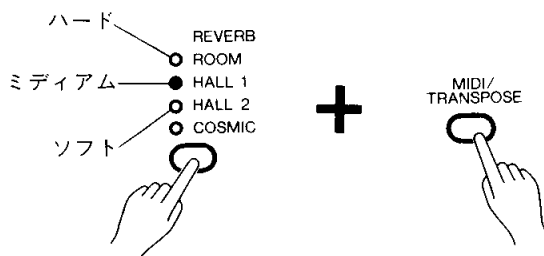
⋮

C₄：左側音色最小音量(0)/右側音色最大音量

タッチセンシティブティ調節機能

弾く強さによる音の強弱の変化の度合い(感度)を、3種類の中から選ぶことができます。

● タッチ感度の選択



MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、リバーブ(REVERB)ボタンを押すごとに、左図のように感度が切り替わります。希望する感度に対応するランプを点灯させてください。ボタンを押すごとに次のように切り替わります。

ハード……………強く弾かないと小さめの音になります。
ミディアム…通常のピアノタッチです。
ソフト……………弱く弾いても大きめの音になります。

🎵 補足 ・音色によっては、効果の少ないものもあります。

・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはミディアムに戻ります。

トランスポーズ（移調）機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー（調）を合わせることができます。（つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。）

±6半音の範囲でずらすことができます。つまり、「ド」の音なら高い方に最大で「ファ#」（半オクターブ上）まで、低い方も最大で「ファ#」（半オクターブ下）までずらすことができます。たとえば、+5半音ずらす（完全4度上げる）と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



● 移調量の設定方法

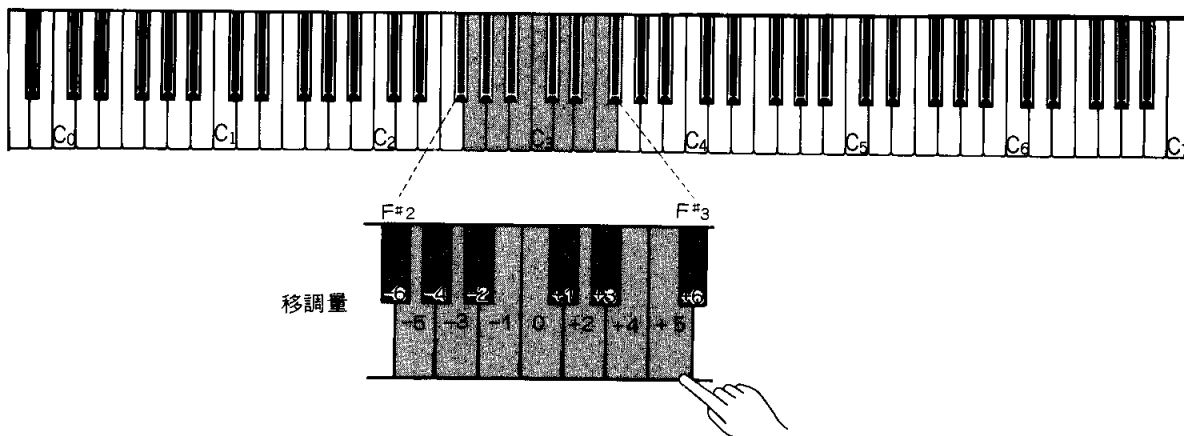
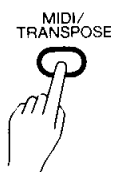
①MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSCOPE)ボタンを押しながら、

②F#₂~F#₃の鍵盤を押さえます。

F#₃の鍵盤……………+6半音に設定されます。

C₃の鍵盤……………標準状態です。

F#₂の鍵盤……………-6半音に設定されます。



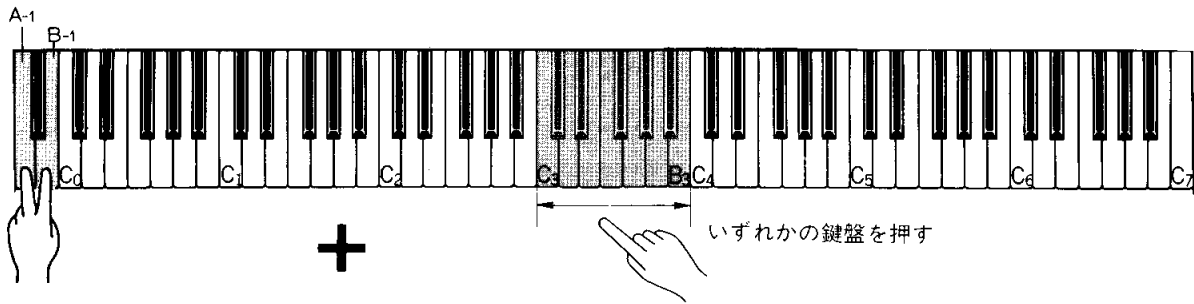
🎵 補足 ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。

ピッチコントロール機能

合奏の時などに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

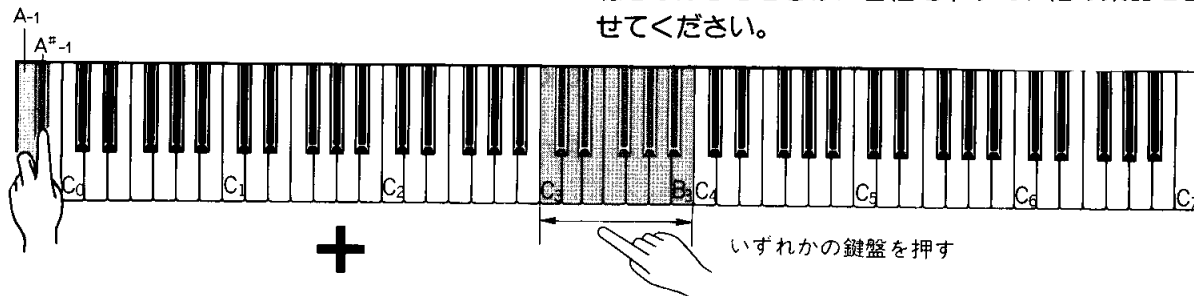
1 音程を上げる時

- ①A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。
音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



2 音程を下げる時

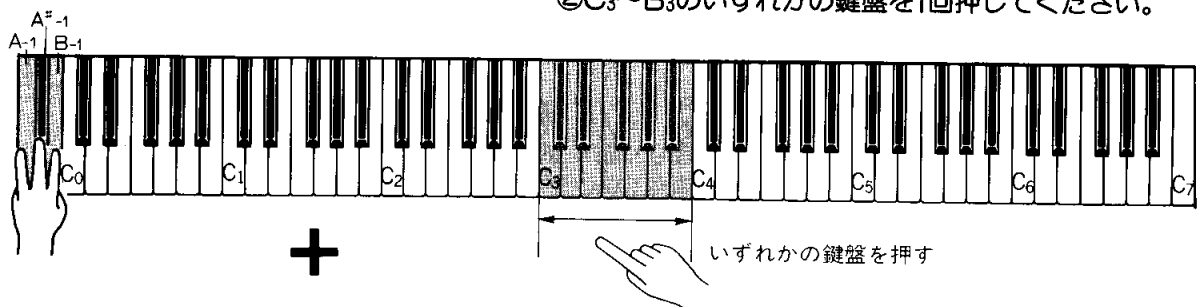
- ①A-1とA[#]-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しな
がら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を
聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わ
せてください。





標準状態に戻す時

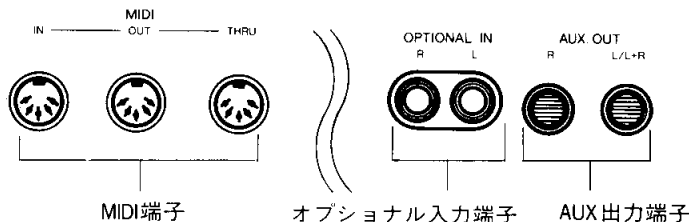
- ①A-1とA#-1とB-1の3鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を1回押してください。



- 🎵 補足
- ・音程は、±約50セントの範囲を約1.2セントきざみで設定できます。(100セント=半音)
 - ・標準状態の時、A₃=440Hzです。
 - ・MIDIのローカルコントロールがオフ(27ページ参照)の時は、ピッチコントロールの設定はできません。
 - ・設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態に戻ります。

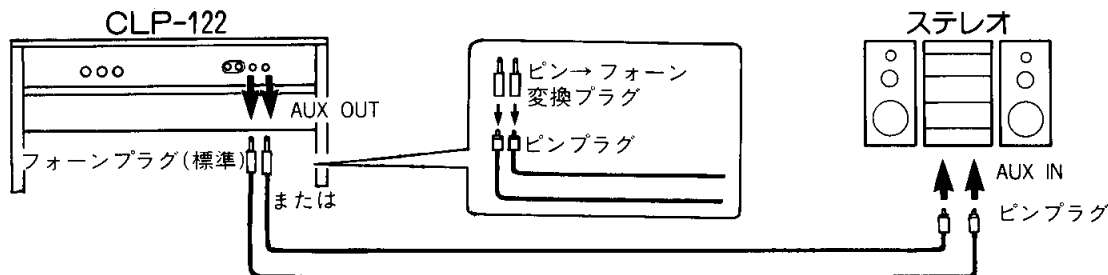
他の機器と接続する

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。



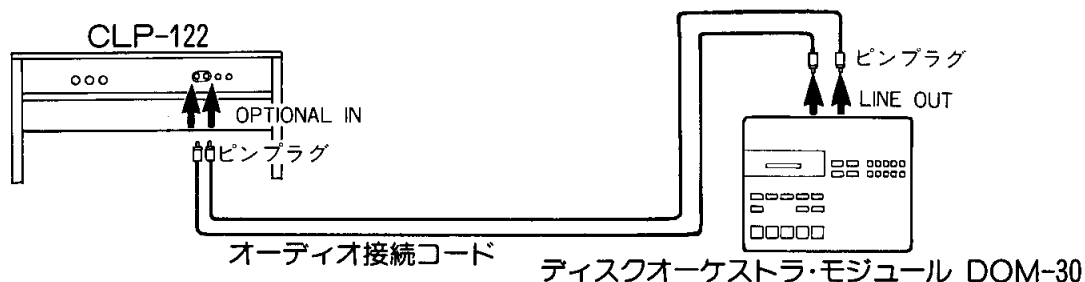
◆ AUX出力(AUX OUT)端子……フォーンジャック(標準)

ステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音することができます。ステレオに接続した時は、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。



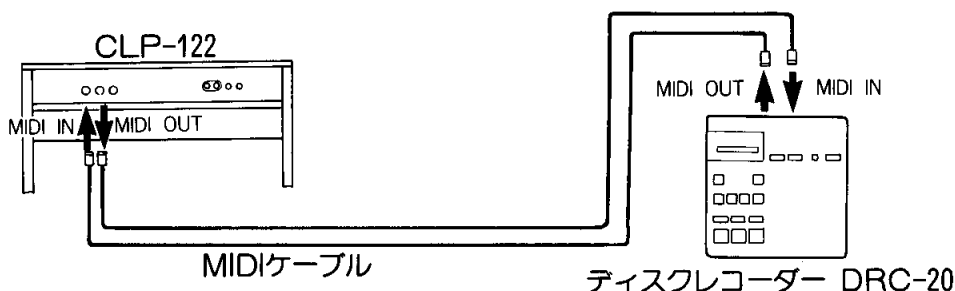
◆ オプション入力(OPTIONAL IN)端子……ピンジャック

他の楽器や機器の音をクラビノーバでいっしょに鳴らすことができます。



◆ MIDI(MIDI IN, OUT, THRU)端子

DOM-30、DRC-20などのMIDI機器を接続します。



MIDIについて

ここでは、まずMIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできることなど順に紹介します。

1. MIDIとは？

MIDI(ミディ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の頭文字をとったものです。日本語に訳せば「楽器間のデジタル通信」ということになります。

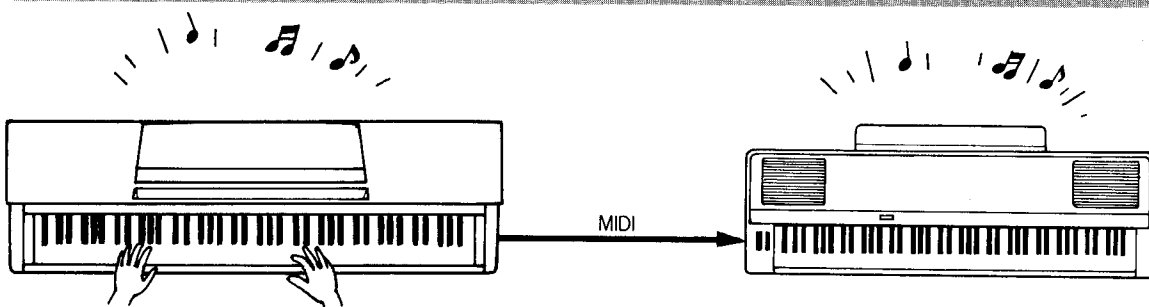
MIDIとは2台以上の楽器をつないで、それらの間で、演奏に関連するさまざまなコントロールをさせようという目的で考え出された世界共通の規格です。

世界共通の規格ですから、メーカーの異なる楽器間でもMIDI規格の楽器であれば互いにコントロールすることが可能です。

2. MIDIの能力

では、MIDIを使うと、具体的にどんな事ができるのでしょうか？

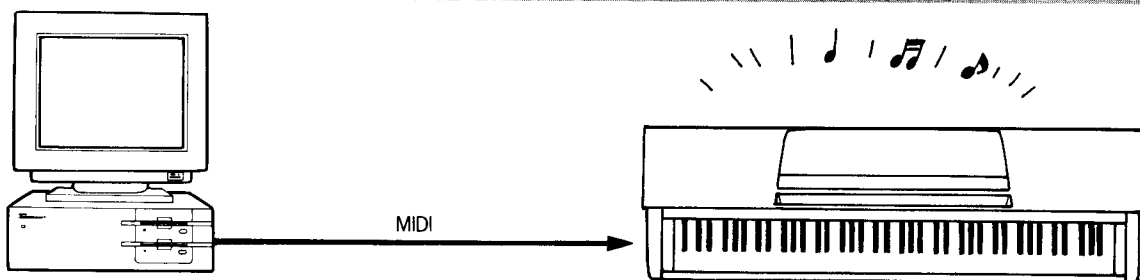
1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードを同時に鳴らすことができます。また、音色の切り替えや、ダンパーペダルのオン/オフなど、さまざまな効果もあわせてコントロールできます。



機種によりMIDIでコントロールできる内容は異なります。接続する機種に共通のMIDI機能についてのみ、コントロールできます。

コンピューターやシーケンサーにMIDIの演奏情報を記録しておけば、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。

(MIDIの演奏情報を記録する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



ここに示した以外にも、いろいろな使い方があります。

3.MIDIの約束ごと

① MIDI端子

MIDI情報のやり取りには、専用のMIDIケーブルを使います。MIDI楽器には、このMIDIケーブルをつなぐために、専用のMIDI端子がついています。

このMIDI端子には以下の3つの種類があります。

イン(IN)端子 ……………MIDI情報を受け取るための端子です。
アウト(OUT)端子 ……………MIDI情報を出すための端子です。
スルー(THRU)端子 ……INから入ってきたMIDI情報を、そのまま出す端子です。MIDI情報を他の楽器にも伝達することができます。

IN ———— MIDI ———— OUT ———— THRU



MIDIケーブルで、情報を送り出す機器のアウト端子(またはスルー端子)と、情報を受ける機器のイン端子を結線します。

② MIDIチャンネル

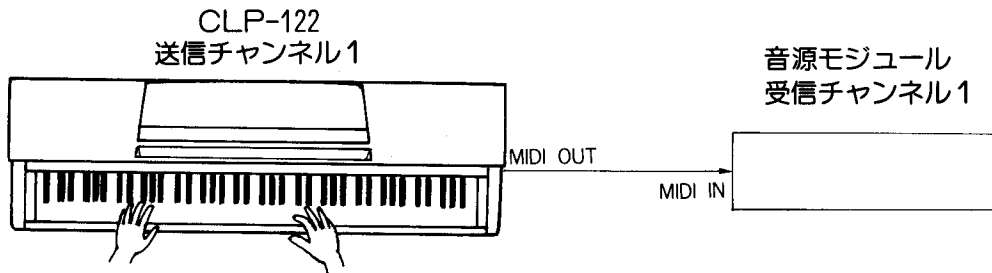
テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIの情報にもチャンネルがあります。

MIDIで情報のやり取りをするには、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。というのは、MIDI情報のほとんどが、それぞれの情報にチャンネルが指定されて送られているからです。(チャンネルのついていないMIDI情報もあります。)

MIDIチャンネルには、1~16までの16種類があり、送る側でどのチャンネルで情報を送るか設定できるようになっています。この送る側のチャンネルを「送信チャンネル」と呼んでいます。

また、受け手側も何チャンネルの情報を受けかを設定できるようになっています。この受け手のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

たとえば、下の図のようにCLP-122を演奏して音源モジュールを鳴らそうとすると、CLP-122の送信チャンネルと音源モジュールの受信チャンネルを合わせなければいけません。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっているのです。



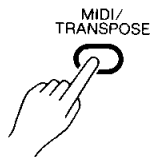
受信チャンネルには、1~16チャンネル以外にもう1つの状態があります。その状態とは「オムニ(OMNI)モード」と呼ばれるものです。このオムニモードがオンの設定になっていると、すべてのチャンネルの情報を受けます。

CLP-122は電源をオンにした時には、送信(MIDI OUT)は1チャンネル、受信(MIDI IN)はオムニモード・オンになっています。

MIDIチャンネルの設定

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルの設定方法を紹介します。

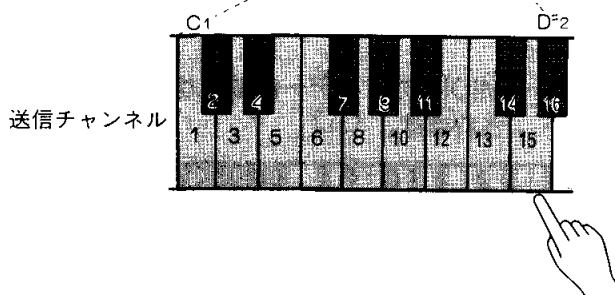
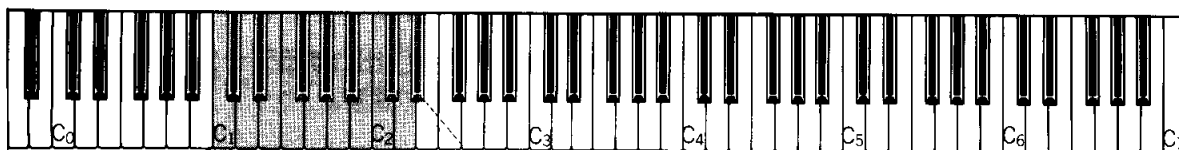
1. 送信チャンネルの設定



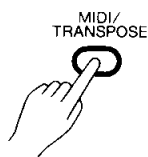
+

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

②C₁~D₂の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。



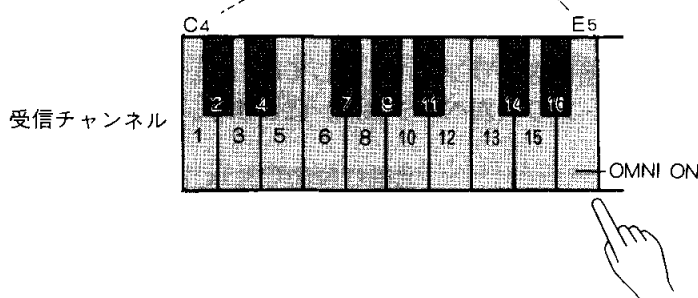
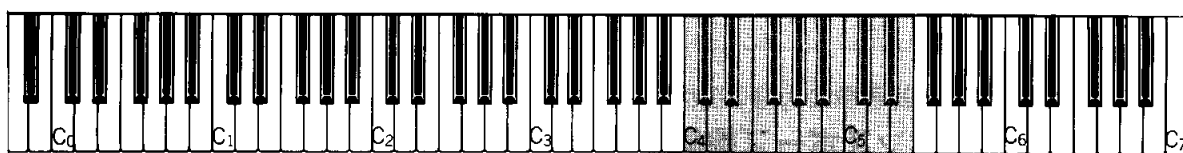
2. 受信チャンネルの設定



+

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら

②C₄~E₅の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。



- 🎵 補足
- ・MIDI受信チャンネルが、オムニ・オンに設定されていると、すべてのチャンネルの情報を受信します。
 - ・電源をオンにした時は、送信チャンネルはチャンネル1に、受信チャンネルはオムニ・オン/チャンネル1に戻っています。

MIDIトランスポーズの設定

本体で鳴る音には影響を与えずに、MIDI出力するデータだけにトランスポーズ(移調)をかける方法を紹介します。

● MIDIトランスポーズの設定

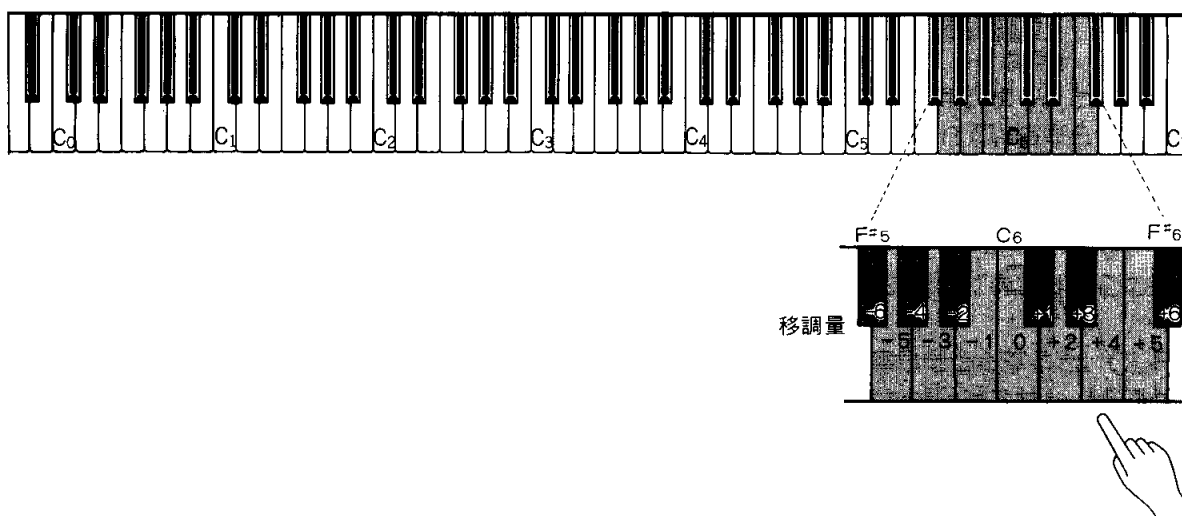
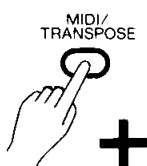
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②F#₅~F#₆の鍵盤を押さえます。

F#₆.....MIDI出力するデータだけが+6半音に設定されます。

↑
C₆標準状態です。

↓
F#₅.....MIDI出力するデータだけが-6半音に設定されます。



◆ MIDIトランスポーズ機能を使った例

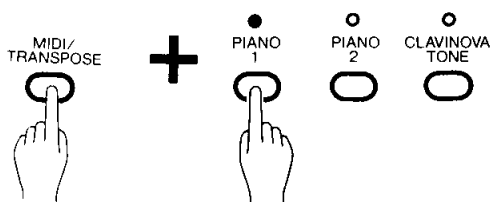
- ・他の音源をトランスポーズして、CLP-122の音とハーモニーをつけて演奏する。
- ・他の音源をトランスポーズして鳴らす。CLP-122の音を出したくない時は、ローカルコントロール・オフ(次ページ参照)にします。

その他のMIDI設定

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、次のボタンを押すことで、それぞれの機能に入ります。

- ピアノ1ローカルコントロール・オン/オフ
- ピアノ2プログラムチェンジ・オン/オフ
- クラビノーバトーン.....コントロールチェンジ・オン/オフ
- エレクトリックピアノ.....マルチティンバー・オン/オフ
- ハーブシコード.....MIDIスプリット&レフトローカル・オフ
- オルガン.....MIDIスプリット&ライトローカル・オフ

1. ローカルコントロール・オン/オフ



- PIANO 1 (with lit lamp) = ローカルコントロール・オン
- PIANO 1 (with unlit lamp) = ローカルコントロール・オフ

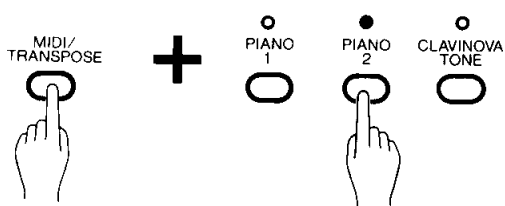
CLP-122の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すかどうかの設定です。

ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。CLP-122本体を鳴らさずに、MIDIで他の音源をコントロールしたい時だけオフの設定にしてください。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、ピアノ1(PIANO 1)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。ローカルコントロール・オンでピアノ1のランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

2. プログラムチェンジ・オン/オフ



- PIANO 2 (with lit lamp) = プログラムチェンジ・オン
- PIANO 2 (with unlit lamp) = プログラムチェンジ・オフ

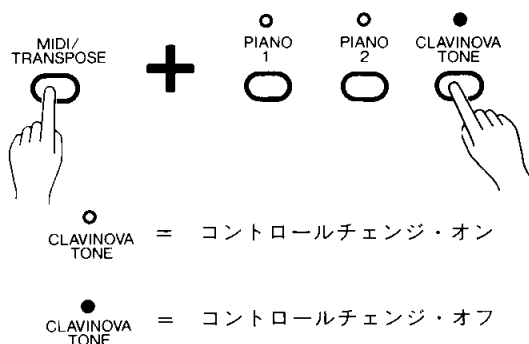
MIDIの音色切り替えの信号を送受信するかしないかの設定です。

プログラムチェンジをオフにすると、MIDI音色切り替えの信号を受け取っても、音色は切り替わらなくなります。また、CLP-122から他のMIDI音源に対する音色切り替えもできなくなります。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ピアノ2(PIANO 2)ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。プログラムチェンジ・オンでピアノ2のランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

3. コントロールチェンジ・オン/オフ

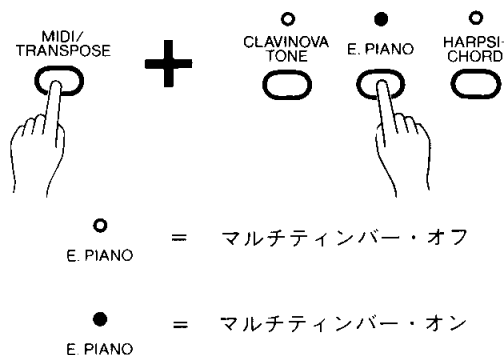


ダンパーペダル、ソステヌートペダル、ソフトペダルのオン/オフの信号をはじめとする、MIDIのコントロールチェンジ信号を送受信するかどうかの設定です。コントロールチェンジをオフにすると、ペダル操作などのコントロールチェンジの情報(33ページ参照)をMIDIでコントロールできなくなります。

オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE) ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。コントロールチェンジ・オンでクラビノーバトーンのランプが消灯、オフにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オンに設定されています。

4. マルチティンバー・オン/オフ



CLP-122をマルチティンバーモードにするかどうかの設定です。

マルチティンバーをオンにすると、シーケンサーに別々のチャンネルで記録されているさまざまなパートの演奏情報を、CLP-122本体1台で同時に演奏することができます。

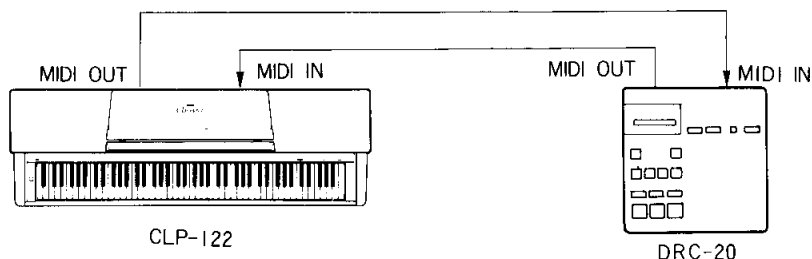
オン/オフの切り替え

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ (E.PIANO) ボタンを押すたびに、オン/オフが切り替わります。マルチティンバー・オフでエレクトリックピアノのランプが消灯、オンにすると点灯します。
- ・電源オン時は、オフに設定されています。

◆ マルチティンバー機能を使った例

マルチティンバー機能を使った例の1つとして、複数のパートによるアンサンブル演奏をディスクレコーダー DRC-20に録音し、録音した各パートの演奏をCLP-122の中の異なった音色で再生する場合を紹介します。

①CLP-122とDRC-20を、図のように接続します。



②CLP-122をマルチティンバー・オンにします。

③DRC-20のトラック1を録音状態にします。

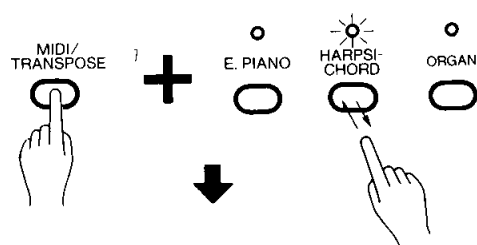
④CLP-122で音色を選び、DRC-20に第1パートを録音します。

⑤DRC-20のトラック2を録音状態にします。

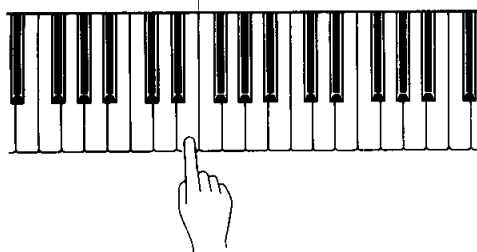
⑥CLP-122で音色を選び、DRC-20に第2パートを録音します。

⑦CLP-122をマルチティンバー・オンにしたままDRC-20を再生させます。録音中に選択したそれぞれの音色を使って、録音したパートが完全なアンサンブルの音になって再生されます。

5. MIDIスプリット&レフトローカル・オフ



クラビノーバ本体の音は出ない ← クラビノーバ本体の音が出る →



○ HARPSICHORD = 通常の状態

● HARPSICHORD = MIDIスプリット & レフトローカル・オフ

ある鍵盤を境にして、左側の鍵盤の音をクラビノーバ本体では鳴らないようにする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を用意すると、左側の鍵盤でMIDI機器をコントロールし、右側の鍵盤でクラビノーバ本体を鳴らすといった演奏が可能になります。

また、境になる鍵盤(スプリットポイント)も、設定することができます。

設定方法

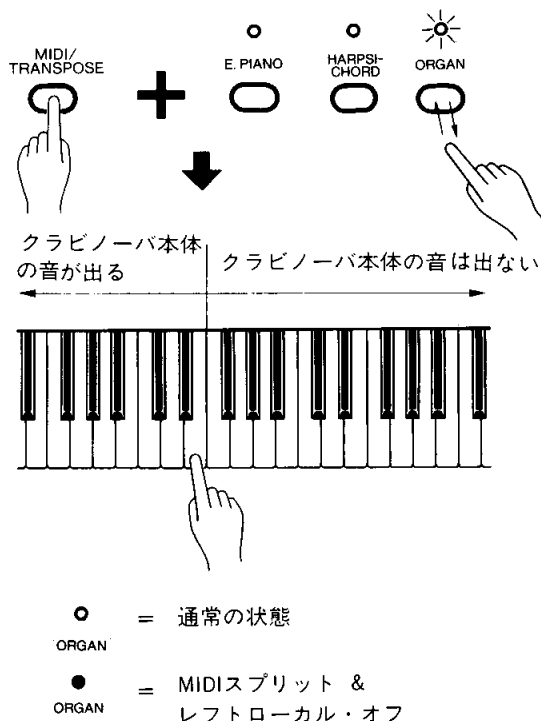
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーブシコード(HARPSICHORD)ボタンを押します。すると、ハーブシコードのランプが点滅を始めます。

②引き続きMIDI/トランスポーズボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。すると、ハーブシコードのランプが点灯し、MIDIスプリット&レフトローカル・オフの状態になります。

③MIDI/トランスポーズボタンを離します。

④再びMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーブシコードボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

6. MIDIスプリット&ライトローカル・オフ



前項のMIDIスプリット&レフトローカル・オフは左側の鍵盤の音が本体から出ないようにする機能でしたが、この機能は逆に右側の鍵盤の音が出ないようにする機能です。

設定方法

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガン(ORGAN)ボタンを押します。
すると、オルガンのランプが点滅を始めます。
- ②引き続きMIDI/トランスポーズボタンを押し続けたまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。
すると、オルガンのランプが点灯に変わり、MIDIスプリット&ライトローカル・オフの状態になります。
- ③MIDI/トランスポーズボタンを離します。
- ④再びMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガンボタンを押すと、通常の状態に戻ります。

- 🎵 補足
- ・MIDIスプリット&レフトローカル・オフ、ライトローカル・オフのいずれも、左側の鍵盤の演奏情報は、MIDIチャンネル2で送信されます。
 - ・スプリットポイントの鍵盤は、常に左側に含まれます。
 - ・電源をオンにした時は、スプリットポイントはF#₂に、MIDIスプリット&レフトローカル・オフおよびライトローカル・オフは通常の状態に戻っています。

MIDIデータフォーマット

ここでは、CLP-122のMIDI仕様を解説しています。MIDIデータについて詳しく知りたい方は、お読みください。

1. ノートオン/オフ

データフォーマット：[9nH]→[kk]→[vv]

9nH=ノートオン/オフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo. (送信15~114=D[#]₁~F[#]₇、受信21~108=A₁~C₇)

vv =ベロシティ(キー・オン=1~127、キー・オフ=0)

データフォーマット：[8nH]→[kk]→[vv]

8nH=ノートオフ情報(n=チャンネルNo.)

kk =ノートNo. (21~108=A₁~C₇)

vv =ベロシティ(キー・オフ=0~127、ただしベロシティのコントロールは行いません。)

※受信のみします。

2. コントロールチェンジ

データフォーマット：[BnH]→[cc]→[vv]

BnH=コントロール情報(n=チャンネルNo.)

cc =コントロールNo.

vv =コントロール値

cc	コントロール	値(vv)
07H	ボリューム (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
0AH	バンポット (受信のみ)	00H~17H : 左6 18H~1FH : 左5 20H~27H : 左4 28H~2FH : 左3 30H~37H : 左2 38H~3FH : 左1 40H~47H : 中央 48H~4FH : スケーリングパン 50H~57H : 右1 58H~5FH : 右2 60H~67H : 右3 68H~6FH : 右4 70H~77H : 右5 78H~7FH : 右6
0BH	エクスプレッション (受信のみ)	00000000 : -∞ 01101111 : -3dB 01111111 : ±0dB
40H	ダンパーペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
42H	ソステヌートペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
43H	ソフトペダル	00H~3FH : オフ 40H~7FH : オン
5BH	リバーブテプス	00H~7FH

79H	リセットオールコントロール(受信のみ)	00H
7AH	ローカルコントロール(受信のみ)	00H : オフ 7FH : オン
7BH	オールノート・オフ(受信のみ)	00H
7CH	オムニ・オフ/オールノート・オフ(受信のみ)	00H
7DH	オムニ・オン/オールノート・オフ(受信のみ)	00H

3. プログラムチェンジ

データフォーマット：[CnH]→[pp]

CnH=プログラム情報(n=チャンネルNo.)

pp =プログラムNo.

pp	音色名
00	ピアノ1
01	ピアノ2
02	グラビノーバトーン
03	エレクトリックピアノ
04	ハーブシコード
05	オルガン

4. システムリアルタイムメッセージ

アクティブセンシングFEH

送信時は約200msecごとに1回。400msec以上受信しないと発音が停止します。

5. システムエクスクルーシブメッセージ

①ヤマハMIDIフォーマット

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[Xn]→[ff]→[F7H]

43H	: ヤマハID
Xn	: サブステータス+チャンネルNo.
ff	: フォーマットNo.

X ff	機能
2	7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト
2	7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

②クラビノーバMIDIフォーマット

データフォーマット：[F0H]→[43H]→[73H]→[31H]→[yy]→[F7H]

43H	: ヤマハID
73H	: クラビノーバID
31H	: CLP-122 ID

yy :サブステータス

03H:デュアル・オン(右側音色1
オクターブ上)

yy 機能

13H マルチティンバー・オフ

5CH デュアルボイス yy :デュアルボイス音色

15H マルチティンバー・オン

7CH オールノート・オフ、受信チャンネル=c+1、オム
ニ・オフ

パネルデータ送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7CH、00H、19H (n=チャンネルNo.)

53H、4BH、20H、20H (SK)

43H、4CH、50H、31H、32H、32H (CLP-122)

3xH、3yH

(x,y=バージョンNo.)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)]=0-(5 3H+4 BH+2 0H+
……+データエンド)

F7H

パネルデータ項目

①ボイス

②デュアルボイス

③デュアルオン/オフ

④デュアルバランス

⑤~⑦0

⑧リバーブ

⑨リバーブデプス

⑩タッチセンシティビティ

⑪レフトペダル(ソフトまたはソステヌート)

⑫スプリットポイント

⑬0

③特殊コントロール

データフォーマット:[F0H]→[43H]→[73H]→[31H]
→[11H]→[0nH]→[cc]→[yy]
→[F7H]

43H :ヤマハID

73H :クラビノーバID

31H :CLP-122 ID

11H :クラビノーバ特殊コントロール

0nH :コントロールMIDIチェンジ+チャンネルNo.

cc :コントロールNo.

yy :値

cc コントロール 値(yy)

08H デュアルバランス 00H:左側音色最大

7FH:右側音色最大

26H タッチセンシティビティ 00H:ミディアム

01H:ソフト

02H:ハード

59H リバーブ 00H:オフ

01H:ルーム

02H:ホール1

03H:ホール2

04H:コズミック

5AH デュアルオン/オフ 00H:デュアル・オフ

01H:デュアル・オン

(ノーマル)

02H:デュアル・オン(左側音色1

オクターブ上)

モデルIDコード送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7DH、00H、10H (n=チャンネルNo.)

53H、4BH、20H、20H (SK)

43H、4CH、50H、31H、32H、32H (CLP-122)

3xH、3yH、20H、20H、20H、20H (x,y=バージョンNo.)

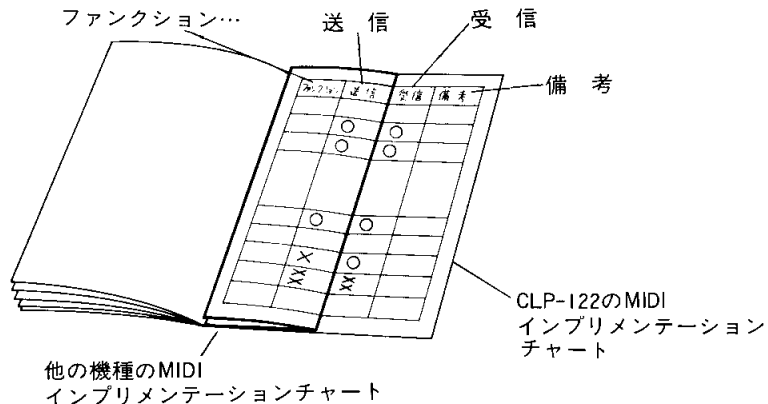
[チェックサム(1バイト)]=0-(5 3H+4 BH+2 0H+
……+20H)

F7H

MIDIインプリメンテーションチャートとは

シンセサイザーや音源モジュールなどのMIDI機器には、必ずMIDIインプリメンテーションチャートと呼ばれる機能一覧表がついています。その機器がMIDIのどんな機能に対応しているかは外見からは判断できないため、このような表をつけることをMIDI規格で定めているのです。

この表では左端の列にMIDIの各機能が並び、受信と送信でそれぞれの機能に対応しているかどうかを“O”と“X”で表わしています。2つの機器でお互いにどんな機能が対応しているかを調べる時には、それぞれの機種チャートを縦に2つ折りにし、受信側と送信側をつなげてみます。(右図参照。“O”が2つ並べば、その機能が使えることとなります。)



MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1992.4.29
Version:1.0

ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×	
ノート ナンバー 音域	15~114 *****	0~127 21~108	
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	○9nH、v=1~127 ×9nH、v=0	○v=1~127 ×	
アフター タッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ	07 × 10 × 11 × 64 ○ 66 ○ 67 ○ 91 ○ 121 ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リバーブデプス リセットオール コントローラー
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○0~5 *****	○ 0~5 0~5	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○(123~125) ○ ×	※1
備考	※1 123はオムニ・オフ時またはマルチ・ティンバーモード・オン時		

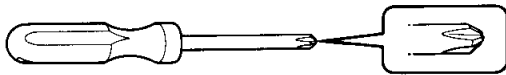
活用編

モード1：オムニ・オン、ポリ モード2：オムニ・オン、モノ ○：あり
 モード3：オムニ・オフ、ポリ モード4：オムニ・オフ、モノ ×：なし

クラビノーバの組み立てかた

- ・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・解体する時は、組み立てと逆の手順で行ってください。

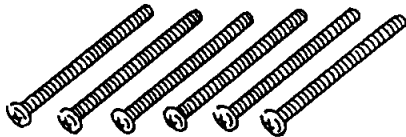
1. +(プラス)のドライバーを用意します。



2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VN92050

長いネジ(金色)×6 ①



短いネジ(頭大)×4 ②



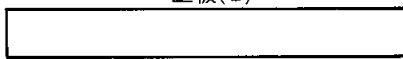
短いネジ(頭小)×8 ③



本体(A)



上板(B)



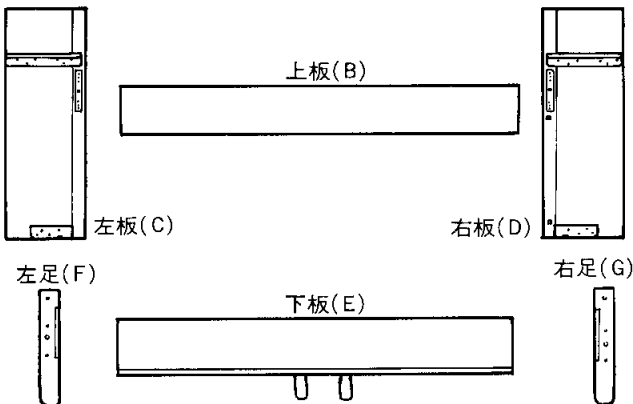
左板(C)

右板(D)

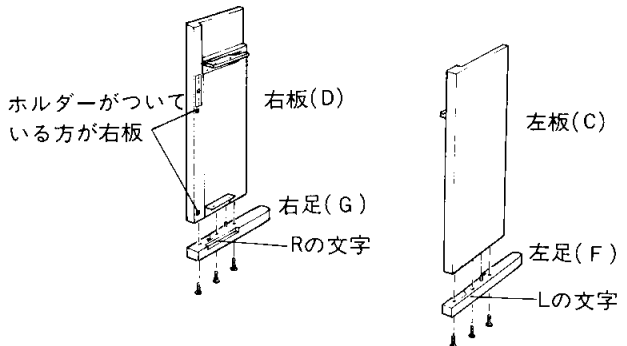
左足(F)

右足(G)

下板(E)

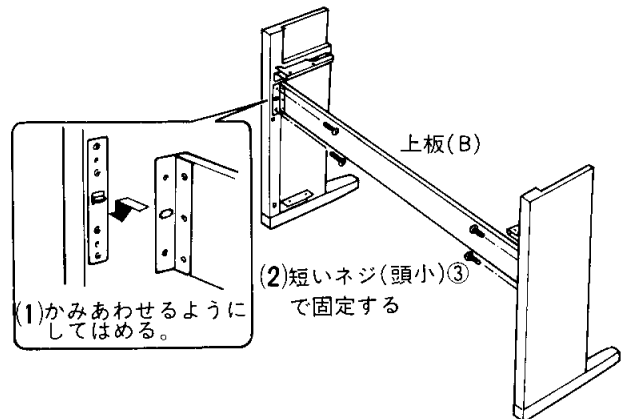


3. 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。

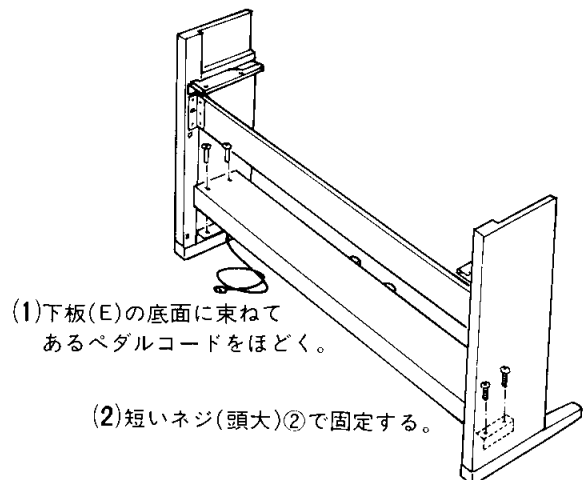


長いネジ(金色)①で固定する。

4. 上板(B)を固定します。

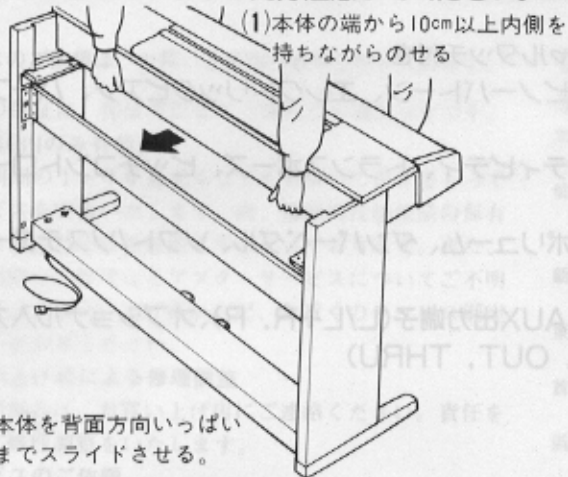


5. 下板(E)を固定します。



6. 本体をのせます。

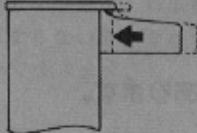
※指をはさまないように充分注意してください。



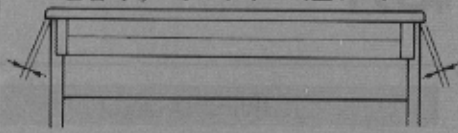
7. 本体を固定します。

注意

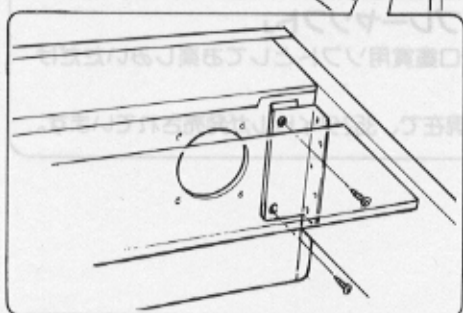
(1) 横から見てすきまがないことを確認する。



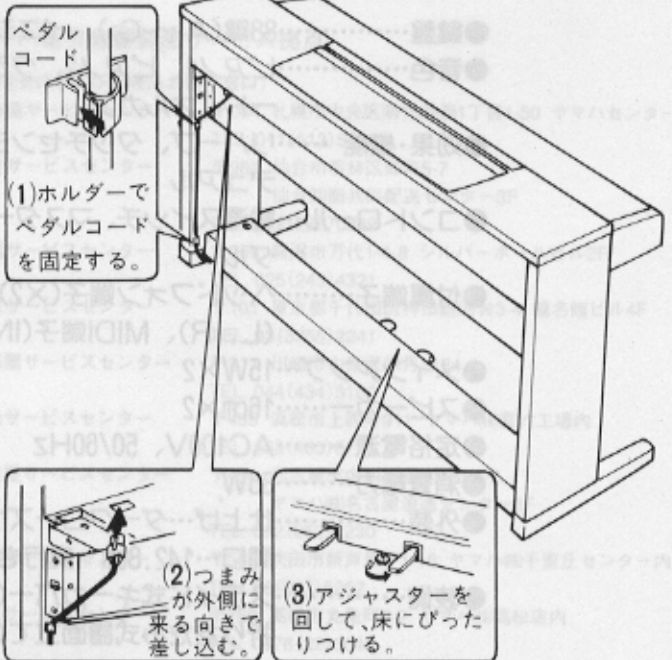
(2) 前面から見て、屋根の張り出し部分が左右均等になるように調整する。



(3) 短いネジ(頭小)③で固定する。



8. ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



🎵 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

【部品が余っていませんか？】

→組み立て手順を再確認してください。

【部屋のドア等が、クラビノーバにあたりませんか？】

→クラビノーバを移動してください。

【クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？】

→ネジを確実に締めてください。

【ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？】

→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

【ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？】

→確認してください。

・引越しなどでクラビノーバを移動した場合は、各ネジを締め直してください。

仕様

- 鍵盤……………88鍵(A-1~C7)、イニシャルタッチ付き
- 音色……………ピアノ1、ピアノ2、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、オルガン
- 効果・機能 ……リバーブ、タッチセンシティビティ、トランスポーズ、ピッチコントロール、デュアル
- コントロール…電源スイッチ、マスターボリューム、ダンパーペダル、ソフト/ソステヌートペダル
- 付属端子……ヘッドフォン端子(×2)、AUX出力端子(L/L+R, R)、オプション入力端子(L, R)、MIDI端子(IN, OUT, THRU)
- メインアンプ…15W×2
- スピーカー……16cm×2
- 定格電源……AC100V、50/60Hz
- 消費電力……35W
- 外装……………仕上げ…ダークローズウッド調仕上げ
間口…142.8cm 奥行…47.4cm 高さ…83.2cm 重量…52.5kg
- 装備……………スライド式キーカバー(アクリル製)
折りたたみ式譜面立て(プラスチック製)

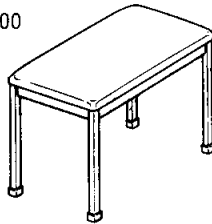
※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション (別売品) のご紹介

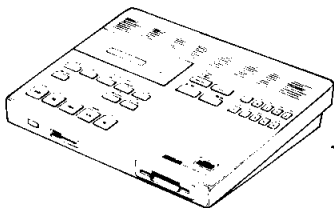
ヘッドフォン・HPE-6
¥5,500



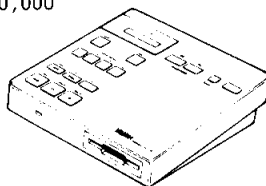
椅子・BC-8
¥8,000



ディスクオーケストラ・モジュール DOM-30
¥110,000



ディスクレコーダー DRC-20
¥50,000



DOM-30対応ソフト

「ディスクオーケストラ・コレクション」

オーケストラをバックにピアノプレイが楽しめます。

'92年6月現在で、下記シリーズ73タイトルが発売されています。

- ・クラシック
- ・ジャズ
- ・ポピュラー
- ・スクリーン
- ・ファミリー
- ・メソッド
- ・弾き語り

DOM-30/DRC-20対応ソフト

「ピアノプレーヤソフト」

ピアノソロ鑑賞用ソフトとしてお楽しみいただけます。

'92年6月現在で、352タイトルが発売されています。

※表示の価格には、消費税は含まれていません。

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店が右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないなどときにお客さまにご迷惑をおかけしなさいですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

[修理受付および修理品お預り窓口]

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 025(243)4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL. 03(3255)2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
[本社] カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店 営業推進課	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター TEL. 011(512)1550
仙台支店 営業推進課	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル TEL. 022(222)6149
東京支店 鍵盤推進課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL. 03(3572)3140
関東支店 営業推進課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL. 03(3572)3120
名古屋支店 鍵盤推進課	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5140
大阪支店 鍵盤推進課	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館 TEL. 06(252)7541
広島支店 営業推進課	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(244)3748
九州支店 鍵盤推進課	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2152
鍵盤営業本部 電子楽器営業部 クラビノーバ営業課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 053(460)3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社